

カテゴリー 27 多職種連携教育

手外科に対する多職種連携教育の試み

Trail of inter professional education for hand surgery

田島克巳 1,2)、佐藤洋一 1)、相澤純 1)、佐藤光太郎 2)、中嶋英一 3)、松田和子 3)

岩手医科大学医学教育学講座 1)、同整形外科 2)、同リハビリテーション部 3)

[目的]岩手県内の整形外科医、形成外科医、作業療法士(OT)、理学療法士(PT)に対し、手外科疾患治療に対する連携教育の必要性に関する意識調査を行った。

[方法]岩手県内の整形および形成外科医、OT、PT に多職種による勉強会の実施を通知し、手外科専門医の講演、作業療法士の講演、症例検討およびスプリント講習会による約4時間の勉強会を実施し、参加者に事前アンケートとして、参加の目的、本会に期待することについての調査を行った。さらに、事後アンケートとして、満足度と今後の開催内容について調査を行った。

[結果] 事前アンケートでは出席者 60 名のうち事前アンケートは 47 名、事後アンケートは 35 名から回答を得た。本会への出席理由は自己研鑽が 39 と最も多く、講演・症例検討内容に興味があったためが 37 (医師講演 15、OT 講演 11、症例検討 11) であった。自由記載による本会に期待することについてのアンケートでは、手外科の知識を求めるものが 11/15 と最も多く、一方で交流、情報交換など連携に繋がるものを求める意見はわずかに 5 のみであった。事後調査では本会の満足度はやや満足、大変満足が 31/35 で、今後は年 2 回以上の開催を希望する意見が 29、今後もぜひ参加したいが 22 と手外科への興味と意欲が窺える結果となった。なかでも事前アンケート(複数回答)でスプリント作成は事前の期待が 17/47, 36%であったのが、事後の今後の開催形式で 20/35, 57%、症例検討が同様に 12/47, 26%が 21/35, 60%となり、これら自己参加型の形式を希望するものは 30/35, 86%であった。一方、講演・講義のみを希望する意見は 4/35, 11%にすぎなかった。

[結論]今回の調査で、医師、OT、PT の手外科に対する学習意欲は十分に窺えたが、多職種連携に関する意識は低かった。今後は希望の多かった症例検討などを通して連携の重要性に関する意識改革を行う必要があると考える。

キーワード：多職種連携教育 手外科 リハビリテーション